

平成26年度 自己評価書

学校名	和歌山市立 西浜中 学校
校長氏名	井谷正人
作成日	平成 27年 2 月 16 日

1 教育目標

「創造力に富んだ心豊かでたくましい生徒の育成」「自ら学び、ともに生きる」

2 本年度の取組についての評価

	開かれた学校	ゆたかな心	確かな学力
重点目標【P】	共育コミュニティ事業の推進。 西浜地域共育協議会の拠点校として、同窓会組織「浜友会」やPTAなど各種団体と協力しながら地域を育て生徒を育てあう学校。 地域とともに防災教育を考える学校。	生徒会活動を核とした体験的学習の推進。 キャリア教育の充実。 道徳教育の充実。 豊かな体験活動を通して、人の心のいたみがわかるなど豊かな感性を養い協力し合う生徒の育成。 市民性を育てる教育の推進。	自ら課題を求め、よりよく解決する意欲を持ち、互いにみがきあう生徒の育成。 落ち着いて、学び合い、高め合う学習集団の育成。

取組の状況【D】	西浜地域共育協議会を中心に、学校（中学校と三小学校）とPTA、地域が協力しながら児童生徒の育成を考える。 水軒浜の松の植栽活動（植樹した場所の2年生生徒による5月末の除草活動及び1年生生徒による2月はじめの植樹活動） サマーフェスティバル（浜友会主催行事へ、ポスター作成や会場準備、模擬店の手伝いなどに生徒会や部活動というかたちでの参加）や森林教室文化祭、吹奏楽コンサート、さらに、PTAバザーなどのとりくみは、歴史もあり、地域に定着した活動になっている。	生徒会活動を核とした、いじめなくソーデー、防犯・防災、障害者理解、エコ活動、PTAや浜友会との交流など体験的学習の推進。 1年生の校外学習や2年生の職場体験等を通じたキャリア教育の実践。 市民性を育てる教育の実践。 給食指導を中心とする食育の推進。 道徳の時間を中心に、「希望へのかけはし」や「わたしたちの道徳」の活用をはかるとともに、全ての教科を通じての道徳教育の充実につとめていく。	新学習指導要領全面実施の中、授業時間の確保に努め、確かな学力の定着に向けた環境の整備。 わかりやすい授業実践のための指導方法の工夫改善。 LD等通級指導教室（トライルーム）を含む特別支援教育（インクルーシブ教育）の理解・充実のための研修の推進。 夏季休業等における補習。
----------	--	---	--

（評価結果）【C】	学校開放月間では、400名以上の参加者があり、保護者や地域の人々も学校を知る良い機会として評価していただいている。 同窓会組織「浜友会」の協力により、文化祭における取り組みやあいさつ運動などの日常的な活動を積み重ねることができた。	AED認定講習会を保健委員及び体育系部活動代表を対象に実施。障害者家族とのつながり文化祭参加。プルタブの回収運動、水軒浜のクリーン作戦、職場体験、部活動による学校清掃ボランティア等、多くの体験的な活動を実施・参加できた。	夏休み期間中や定期テスト前に行った補習学習は全学年実施した。現職教育では防災教育や服務について、学力向上対策、インクルーシブ教育、情報セキュリティーなどの課題について深めることができた。 不登校生のなかでも、別室登校やふれあいセンター等への登校が増えてきた。
-----------	--	--	--

改善方法【A】	平成27年度は、二学期に国体や障害者スポーツ大会をひかえ、例年通りの行事をこなしていくことが難しい状況に置かれているなか、授業時間の確保をはかりつつ、学校、PTA、浜友会の連携のもと三者のバランスのとれた行事計画を進めていきたい。	市民性の育成は社会科の授業で地域の歴史や特色、現在の課題を学習し、地域を愛する心の育成を図るとともに浜友会やPTAなどと連携しボランティア活動に取り組みめた。今後もより多くの体験の機会を設けたい。	わかりやすい授業実践のため引き続き研修を深めていきたい。 また、基礎学力の充実に向けて、休業中における取り組みとともに、日常の活動のなかで補充学習をおこなう。朝の基礎的学習の充実。特別支援教育（インクルーシブ教育）・ユニバーサルデザイン授業の充実をはかる。
---------	---	--	---

3 その他の課題

- 特別支援教育（インクルーシブ教育）のとりくみをどのような形でつなげていくか。
- 生徒指導において、通級指導教室との連携を密にし、より、きめの細かい生徒対応に努める。
- 人権教育・道徳教育の充実により、他者へのかかわりや規範意識、思いやりの心を育てる取り組みを強める。